

## 四谷の

# 千枚田だより



第 122 号

荒廃の進む  
棚田を「地域  
の宝」として  
位置づけ写  
真を撮り集  
め平成六年

## 棚田の現状と課題

「四谷の千枚田」は水田面積三、六  
畝四百二十枚を二十二戸の農家が  
一戸あたり約十五畝十五枚、平均面  
積〇、九畝にも満たない棚田を保全  
する小規模農家である。

かつては千二百九十六枚あった  
田んぼも昭和四十六年「コメあまり  
対策」の一環とした減反施策で転作  
を強いられ一時期は転作作物とし  
てシキミやアカメなどの花木や梅  
や栗の作付けを奨励され、栽培した  
ものの花木などは出荷手数料を負  
担するはめになった。今、棚田の一  
部で梅や栗が見られるのがその名  
残である。

減反施策が起因し、また、経済成  
長に伴い我も彼も労働力の供給者  
として現金収入を求め都市部に働  
きに出かけた。厳しい条件の棚田を  
耕作するより幾日か働けば一年中  
のコメが買える時代に変貌してし  
まい、平成元年には三百七十三枚ま  
でに減少してしまった。

(舜)は平成三年、五十才の誕生日  
に単身赴任や長距離勤務などで地  
域住民にご無礼をお掛けしたその  
お礼に何かご恩返しができたらと

愛知国体山岳競技会場「やまびこの  
丘ギャラリー」を皮切りに東京都美  
術館など各地の写真展に出演、保存  
活動を発動した。

平成八年、河西 忍さんは(舜)の個  
展を鑑賞し、千枚田に魅せられ、今  
では一番の耕作枚数を耕す立派な  
百姓になっている。その反面、いろ  
いろな団体が棚田の魅力に絆され  
耕作したものの甘っちょろい都会  
人に棚田の厳さに耐えられずサツ  
サと退散。置き土産に手に負えない  
「ヒエ」や「オモダカ」が置いてい  
かれた。熱しやすく冷めやすい都会  
人を対象に先祖の遺産を連綿と守  
り耕す棚田の百姓は偉い。現在は四  
百二十枚が増えもせず、減りもせず  
保全管理が行われている。千二百九  
十六枚あった当時は鞍掛山も草刈  
り場で干草が棚田の有機肥料とし  
て利用され、降った雨が地中深く浸  
透し秒間二十リットルを越す湧き水があ  
った。今は木材の低迷から放置林化  
され湧き水も枯渇、その量も三分の  
一に減少。現在耕作されている四百  
二十枚が適正面積である。

平成三年頃にはわざわざ棚田を  
見に来る暇人もいなかったが平成

六年の個展開催頃から見学者も  
除々に増え平成十七年全国棚田サ  
ミット開催年には約七千人、今では  
二万人を越す人々が癒しを求め訪  
れるまでになり地域の宝、市・県の  
顔と褒め称えられるまでに至った。  
嬉しいことにいくら頑張っても銭  
にもならない棚田に八十才代の老  
夫婦、六十才代の若年寄り夫婦、二  
十才代の若夫婦が棚田を守り、耕し、  
家族で「おやつ」をつまむ様は微笑  
ましい。

生きもの観察会や一般見学者を  
案内していると杉林になった田ん  
ぼや畑地化した田んぼを見て「なぜ  
田んぼを作らないのか、もったいな  
い」等の質問が多々ある。その都度、

見た目では何とでも言えるが我々  
も好きこのんで休んでいる訳では  
ない。これには、それなりの事情が  
あつての事で、逆に「大変ですね」  
とはよく聞くが未だかつて「手伝  
いましょうか」は聞いた事がない。と、  
つつい・・・また、これだけの景  
観を守っているには行政からの支  
援が相当あるものと誤解されてい  
る。確かに年間十二万円を頂いてい  
るがそのうち四万五千円は訪れる  
皆さんの大小便の汲み取り料金に  
消えてしまう。・・・と言いたくは  
ないがグチがでてしまう。

何だかんだ言っても棚田の百姓  
は足下をしつかりみて今日も頑張  
っている。



### 新城高校稲刈り

九月二十二日、同校農業クラブの学生は育農学習の一環として田植えから収穫までの体験学習を原田英史(理事・ふるさと指導員)の指導で稲刈りを実施した。



### 連谷小学校稲刈り

千枚田でのお米作りの活動も稲刈りを残すだけとなり、二十五日(水)に全校(五名)で稲刈りをしました。

四年生(一人)の総合的な学習の活動で、毎週千枚田の様子を記録に残し、変化の様子を追ってきました。季節によって表情を変える千枚田で、多くの新しい発見をしました。

当日はテレビ取材やカメラマンさんがいっぱいきました。



### ガイド

九月十九日、二十五日、二十七日(各九十名)静岡健康長寿財団主催 生きがい教室「四谷の千枚田」見学



### 主な行事

- ・十月二十六日、坂折棚田保存会設立十周年記念シンポジウム 於：恵那市(パネラーとして(舜)出席)
- ・十月二十八日、JICA 中部主催平成二十五年国別研修ベトナム「棚田の保全・森林における小水力発電」研修員四名 講義(舜)
- ・十月三十日、三遠南信サミット 於：飯田市(三遠南信住民ネットワーク協議会東三河代表幹事として出席)

- ・十一月一日、愛知県ふるさと水と土指導員連絡会議 於：身平橋集会場(原田英史・林義明・小山舜二出席)
- ・十一月八日(九日)、全国棚田サミット 開催地 和歌山県有田川町(原田英史、今泉雅男、小山泰弘、松下誠、高橋孝行、小山舜二参加)

### 三世代で勤しむ家族



**お知らせ**  
十月二十日(日)、保存会は連谷お助け隊の協力を得て「ふれあい広場」等々の環境整備活動を実施します。

行 平成二十五年十月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二